

まちの遺産

藤倉山と鍋倉山

―神帰山光明聖寺遺跡―

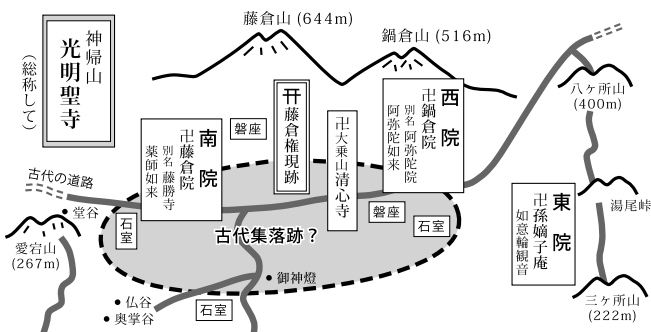
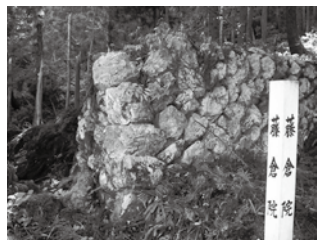
今庄の西には藤倉山（643m）、と鍋倉山（516m）があり、この両山の山麓にはかつて七堂伽藍があったといわれる神帰山光明聖寺の遺跡があります。白鳳・飛鳥時代に始まった門前集落が、光明聖寺を中心に存在したことが伝承されています。

近年、中高年の登山者が後を絶たない藤倉・鍋倉山ですが、尾根を通るハイキングコースの山腹にこの遺跡群があります。しかし、この遺跡を明らかにするものは少なく、湯尾に残る「日本大厄神三社権迹浅略記」に「藤倉之記」という古書があり、次のように記されています。

「醍醐天皇より延喜十五年乙亥（915）の夏に、神帰山光明聖寺の勅号を賜り第一院を総称して光明聖寺と名づけ、南院を藤倉院、又の名を藤勝寺とも称し、堂衆多し。さらに西院を鍋倉院と呼び又の名を阿弥陀院とも称し、東院を孫嫡子庵と称する」

遺跡上に照らし合わせると、その場所が正方位でないとしても概要はほぼ納得できるものです。

また、かつて山麓内にあった清心寺の縁起には「往昔は藤倉山鍋倉院東照寺（藤勝寺）と云う天台宗の大坊有之処、叡山より破却の由。今に鐘楼



（南越前町文化財保護委員 山蔭重遠）

跡谷々に堂谷、仏谷などと言つ字残り」とあり、何らかの理由により比叡山と決別し、このことが神帰山光明聖寺衰退のきっかけになり、現在の新道、今庄、湯尾地区への下山へと繋がっていったものと思われる。このように考えていくと、藤倉、鍋倉山は今庄の始まりと言えるかもしれません。

この藤倉山一帯は今庄から距離的にはそう離れていないにもかかわらず、登攀時間は結構かかります。毎年八月末頃の日曜日には、今庄壮年会がハイキングコース整備と遺跡の草刈を行っています。歴史に興味がある方は登ってみてはいかがでしょうか。今庄の始まりに出会えるかもしれません。

和の風 町長随想

増澤 善和

今の食生活を考える

「中国産冷凍ギョーザに毒物混入」のニュースには大変驚かされた。ギョーザのように多くの食材で加工された食品は、包装を見ても原産地がわかりにくい。仮に中身だけを輸入して国内で加工すれば日本産になってしまう。病原菌や異物の混入、残留農薬も困るが、今回は食品に毒物を直接混入するという極めて非人道的犯罪性の強い事件である。どこで混入されたかは両国の調査結果を待つとして、この事件をきっかけとして私たちの食生活を考えてみたい。

①食料の自給率が40%以下

米離れ、若者離れ（都市へ集中した後継者がなく耕作放棄が多い）人件費高く国内産食品がコスト高。安価な外国産食品の輸入に頼ることになる。

②既製食品が多用

共働き・遠距離通勤・残業などで手料理の時間が不足。電子レンジ・大型冷蔵庫の普及などで、既製食品（特に保存力のある冷凍食品）が多用される。中でも中国からの加

工食品の輸入量は十年前の約三倍、冷凍食品は五倍と激増中。日本全体で真剣に食の安全を考える時が来たようだ。

視点を変えると、外国からの輸入は、世界の海と空を二酸化炭素で汚染し、地球温暖化を促進することにもなる。

③学校給食

学校給食の厨房建設費、維持管理費、調理師の人件費の削減を理由に民間委託する学校もあると聞く。子供の安全と将来は金より大切である。当町においては、食育の面からも町独自の給食態勢を続けたい。今度の事件で、町内各給食センター、保育所の給食材料を調査したが、この製産工場から輸入した食品は無かった。今後も更なる安全と地産地消の心で運営したい。

最近一家団らんと称して外食に出る家庭が多いが、手作り料理から後片付けまで家族全員で参加する一家団らんもお勧めしたい。最後に、食べ物が手作りの「勤勉」から金で買えば便利の「金便」にならぬよう心がけたいものである。